

10/3(木) 文化の部

大 中 祭 特 別 号

はばたき

10/4(金) 体育の部

「成長」

PTA会長 石口 嘉美

今年も早いもので、一年の締めくくりの時期になりました。会員の皆様方には平素よりPTA活動及び学校教育にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

色々な行事があった二学期も終わろうとしています。近くでは十一月十六日のオープンスクール。初めての試みとなりました土曜日のオープンスクールですが、多くの保護者の方にご参加いただき、子ども達の学び姿を見ていただけたことと思います。

一年生においては「親と子のSDGs」持続可能な開発目標について、親子で共に体験していただき良い経験になったことと思います。一般的にSDGsは高校や大学の講演などで行われることが多いのですが、他の方たちよりも早く経験された一年生の皆さんはとてもラッキーと言えます。

また、色々なことに応用可能で、企業の長期戦略、人事制度の構築、組織開発、働きやすい職場づくり、カウセリング、働き者の心のサポートとリーディングにも応用できるそうですので、ぜひ、今後の学校生活や人生の糧にしたいだけのことをご期待しています。

また、今回我が校においてSDGsの講習が行えたのは、本校教員の松浦先生が資格を取得していただいたことによります。今後も各学年においてSDGsを行っていただき、生徒の考えや視野を広くして頂けるようお願いいたします。

さて、二学期と言えば大中祭を語りずにはいられません。皆さんの待ちに待った大中祭「文化の部」においては各学年、各クラスの発表、そして自由参加のバンド、ビデオ、ダンス、皆さんの自由な発想と自己表現力、どれもこれも個性が出ていてとても素晴らしいかったです。

ユーモアあふれる「ダンボルギーニ」。一年生の劇、演目「十九人」。部落解放研究会の発表「橋のない川2019」。自分自身に負けるな。子ども達の真剣に取り組み姿に感動を覚えました。全ての生徒達が、これからもしっかりと自己主張ができることを期待します。

そして二日目の「体育の部」。前日からの雨の影響で、中止になるのかと思いましたが、朝早くから、先生方、生徒達そしてPTA役員の方々の協力により何とか開催することができました。皆様ご苦労様でした。

幸いにも、日中は天候に恵まれ、子ども達の生き生きとした躍動感あふれる姿に、文化の部とは違う迫力を感じました。「地域と共に」を常に心がける大中らしく、保護者や来賓の方々にも多く参加していただき、とても和やかな雰囲気のもと開催できた「体育の部」だったと思います。

大中祭を通して生徒達が心身ともに成長していただけたこと、生徒達の頑張る姿に感動を覚えました。そして子ども達を指導し、輝かせてくださった先生方の姿勢と取組に「ありがとう」と心からお礼を申し上げます。そして、PTA会員の皆様、地域の皆様、本年度もPTA活動及び学校教育へのご協力、感謝申し上げます。二〇一九年度も残すところわずかとなりました。来年も皆様方にとって幸多き年となりますように、お祈り申し上げます。



第29回 大 中 祭 百花繚乱大中祭 don't be afraid of making mistakes ~失敗を恐れないで~

文化の部では、各学年各クラスでシナリオ係や、小道具係などそれぞれ役割を決め、任された役割を果たしながらも、困っている友達がいたら助け「ここはこうしよう」と全員で考え、各担任の先生達にも相談し、練習してきました。各クラスともそれぞれテーマ、内容の違った劇で、観ている人たちを魅了していました。

体育の部では、前日の夜に雨が降ったため一時は開催ができないのではないかと考えられましたが、その後晴天に恵まれ無事に開催することができました！元氣と闘志溢れる子ども達の顔つきは、より一層たくましく見えました。喜びの声を上げたり、負けて悔しそうにしている友達を励ましたりする様子が印象に残っています。

それぞれ一人一人がそれぞれのテーマを持って失敗を恐れず、任された役割を果たし、活躍をしていました。まさに「百花繚乱」「失敗を恐れないで」というテーマにふさわしい大中祭だったように思います。



実るほど頭を垂れる 稲穂かな

校長 向本 博俊

保護者の皆様、平素は「二本の竹」事業をはじめ、様々な場所から大正中教育を支えていただき誠にありがとうございます。誠にありがとうございます。

「まだまだ暑いなあ」と言いながら始まった一学期も終わりに、もうそこには新しい年が待っています。振り返ってみれば月日のたつのは本当に早いもので

「実りの秋」と言いますが、大正中の子どもたちも二学期の数々の学習活動を通して、たくさんの実りを実感してくれました。二学期と言え本校最大のイベント「大中祭」。例年は九月に入ってから取組をスタートし、寸前には大変なバタバタ感があつたので、今年度からは一学期中にクラスで実行委員を選出し、夏休みスタートと同時に本格的な活動へ、という形をとりました。結果、子どもたちも教員も本番までの一か月をじっくりと仲間との共同活動に取り組み充実した期間にしてくれたと思います。

文化祭のステージや、体育大会のグラウンドでは、ふだんの教室での姿とはまた違ったキラキラを見せつけてくれる子、いつもどおりのキラキラにより磨きをかけて表現してくれる子などいろいろな姿がありました。「自分」という「稲」に、様々な色の「キラキラ」を自分らしさを創る「部分」として「穂」を束ねる学習体験を積んでくれたと思います。

また二学期は、大正中に「哲学」という新たな風を入れた秋でもありました。複雑化・多様化するこれからの社会を生き抜く上で、欠かせないのが「ものごとの真実を見つめる力」。他者の考えや意見を聴き取る力。「まわりと折り合いながら自分を見失わない力」などです。そんな力の基礎づくりとして二学期で「哲学対話」の授業（六時間）を行いました。実験的な取組ですが、この新芽を確実に実らせたいと思っております。

その一方で「まずは大人が哲学の勉強を！」という気持ちで「大人の生き方勉強会」を九月から始めています。人間的な生き方について、大人は子どもにどんな事を示せるのだろうか？この勉強会を名付けて「WAYプロジェクト」。「道徳」を「道」という意味です。文字通り「人の道」「道徳」を子どもたちにどう示していくか、みんなで考えよう、という思いから名付けました。ここではPTA会長さん、学び力育成委員会会長さんはじめ地域の方、そして他校の先生も参加してくれ、熱い議論をしています。また、大阪市立大学の道徳教育の先生がアドバイザーとして毎回来てくださるようになりました。数名の教員から始めたことなのですが、仲間の輪がどんどん広がっています。原則毎週木曜十九時〜二十一時すぎまで本校図書室でやっています。参加はどなたでも自由です。多くの保護者の方にも参加してほしいです。詳しい中身についてはホームページの「生き方科・世の中科」の中の「WAYプロジェクト」を開いてください。

これ以外にも多くの「実り」があった秋でした。本校が今年度に入ってからホームページに掲載した取組の件数は、何と二百件を超えました。それだけの学習を子どもたちはこなしてくれたといえます。いやな顔をせず真剣に学習に取り組んでくれた秋でした。

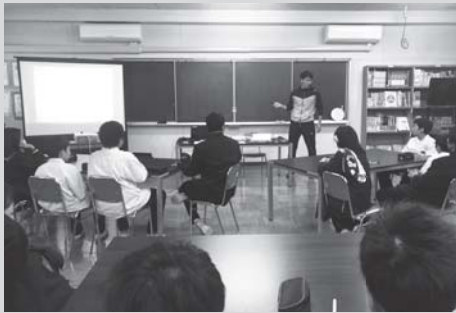
遠い昔のギリシアの哲学者、ソクラテスは「無知の知」という言葉をあみ出しました。「人は知れば知るほど、自分が何も知らないことを知る。そこから真の学びが始まる。学ぶ者は謙虚である」と。日本でも昔の人は言っていましたね。

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」この言葉を胸に、二〇二〇年からの大正中も子どもを育てていきます。来年もどうぞよろしくお祈りします。ようお年を。

大正中学校 新プロジェクト「生き方科・世の中科」

1年生 「学ぶとは何か」 部落問題学習

1年生では「世の中科」で部落問題学習を始めました。その題材として取り上げたのが「狭山事件」です。この事件から部落差別がどのようなものなのか、その差別の中で石川一雄さんという人がどのように生きてきたのかを知り、石川さんはなぜ学ぶのか、石川さんにとっての学びとは何だったのかを学んでいきました。そして自分たちはどのように生きていくのか、自分にとっての学びとは何かを考えていきました。



《以下、授業の流れ》

- 1 時間目は、そもそも「狭山事件」とはどのような事件なのかについて授業をしました。「なんで石川さんが逮捕されたん？」「おかしいよな！」といういろいろな場面でのめりになり、声を上げながら授業に入り込んでいました。授業が終わってからも、「石川さんどうなったんやろ？」「早く授業してほしい！」と狭山事件についてもっと知りたいという声がかきこえました。
- 2 時間目は、狭山事件の中に隠れた「部落差別の実態」を構造的に学んでいきました。教員による劇を通して取り調べを受けているときや、死刑判決を言い渡された時の石川さんの気持ちなどを、「自分ならどう感じるだろう」と想像しながら話を聞いていました。
- 3 時間目では、石川一雄さんが無実を訴える（自分の生命を守る）ために、文字を学んでいき、同時に差別の現実も知っていったということを知りました。時にはくじけそうになり学ぶことをやめようとしたこともあった石川さんが、最後まで学び続ける姿から、「石川さんすごいなあ」「自分やったら無理やわ」といった声があがりました。また最後に「石川さんってどんな人やろな？」という問いに「いろいろな苦しみを乗り越えられるすごい人」「かっこいい人」「心が強く優しい人」など様々な意見が出ました。
- 5 時間目は、石川さんが裁判を闘っていく中で、共に闘ってきた人たちの存在があったことを学びました。共に闘う人たちの存在に気付いた石川さんが「自分ももっと頑張ろう」と決心したことを、石川さんの言葉や詩から学習しました。



この5時間の部落問題学習を通して、全員が興味を持ちながら授業に取り組む姿がみられました。また、生徒たち自身が調べ、発言する場面もありました。石川さんの闘う姿（部落差別と闘う姿）から、また、連帯して闘う人たちの姿から、差別や偏見のない社会の実現のために、自分たちは何が出来るのかを考えるきっかけになったのではないかと思います。

2年生 哲学シリーズ

2年生では「生き方（道徳科）」での「哲学対話」の実施にむけて、計4回の授業を実施しました。

第1回目の授業は校長先生の授業で『哲学って何だろう？』『哲学対話で何を学ぶの？』そんな話を真剣に聴いている子どもたちの姿がありました。そして、「哲学って自分の生き方を考えることやなあ」と子どもたちから声があがっていました。

第2～4回の授業は株式会社イミカの前田さんを講師にお招きし、授業をしていただきました。2回目は美術鑑賞をもとに『とらえ方の違いを認め合う』ことをテーマに授業をしていただきました。1枚の写真をはさんで子どもたちが「俺はこう思った」「私にはこう見えた」「なるほどなあ」と対話している子どもたちの姿がありました。3回目の授業では『人にはそれぞれ考え方のクセがある』をテーマに授業していただき、生まれも育ちも考え方も人によって異なるからこそ「人は誰も偏見をもっている」ということにもみんなが気付かされました。そして、お互いの違いを知るためには「コミュニケーションをとることが大切である」と学びました。4回目の授業では『相手が必ず喜ぶプレゼントを考えよう』をテーマにグループで会話をし、会話の中から「相手が喜ぶツボ」を探っていく授業をしていただきました。「絶対これやろ」「それあんたの趣味やろ」と子どもたち同士で活発に対話していました。前田さんの授業を通して、学んだ①正確さと豊かさで相手に伝える（言葉、絵、音楽でもよい）。②相手との違いを踏まえて関わる。③新しい何かを生み出すとする。④鷓呑みにせず疑問をもって関わる。』という、自分で自分を変える「考え方」をもとに、これからも哲学対話に向けて学習していきます。



3年生 「働く」ということについて

11月8日の5限目に3年生（B組）を対象とした「みんなの授業研」を行いました。授業の目標は「自分が仕事をするとき、こだわることは何かを考える。」です。3年生は働くということに対してどのように考えているのか、そして大人はなぜ働くのか、どのようなこだわりがあるのかについて、生徒と教員と一緒に考えました。



授業の最初には前に採ったアンケートの結果を基にみんなが「働く」ということに対してどのようなイメージを持っているかというランキングの発表をしました。生徒達の仕事イメージは「ブラック」や「しんどそう」等のマイナスイメージが多かったです。

たいか、それぞれのお店のこだわりは何か、悩んでいる様子でした。

最後に実際に自分自身が将来の夢や、働いてみたい職業を想像し、働くときにこだわりたいことは何かという質問に対して紙に書き、黒板に貼って全員で共有してみると、「接客」や「お金」、「あいさつ」等たくさんこだわりの書き、中には「バランス」と書いている子もいました。働くことについて、その時のこだわりについて深く学ぶことができたのではないかと思います。

次に働くときのこだわりを考えるために、2つの簡単な劇を見ました。設定はラーメン屋。「接客は悪いが味にこだわってお店」と「接客にこだわっているが味は普通のお店」（授業では「A店」「B店」と説明）を見た後で、どのお店に行き、どのお店で働きたいかという質問に生徒達は



大中学生の活躍！

- 【第31回サンダル履き物コンテスト（ジュニア部門）】
- 2年 福住 真央 優秀賞
 - 2年 細川 梓 奈良県履き物協同組合連合会理事長賞
 - 2年 藤田 琴菜 御所市議会議長賞

- 【バスケットボール部】
- 第3回ネイ・スミスカップ 準優勝 男子
 - 敢闘賞 芋生 吟人
 - 市新人戦大会 優勝 男子・女子



生徒会 新役員紹介

生徒会役員選挙が十一月十五日（金）に行われ、新執行部が決定しました。大正中学校の生徒のみなさんに選ばれた代表として、力を合わせて一年間活躍してくれると思います。期待していきましょう。

- | | | | | | |
|----------------|---------------|---------|---------|----------|-----------|
| 書記 | 書記 | 書記 | 副会長 | 副会長 | 会長 |
| 一年 | 二年 | 二年 | 一年 | 一年 | 一年 |
| 福住千隼 | 少路優斗 | 福住真央 | 米田萌衣 | 吉田梅萌 | 池田郁紀 |
| (ふくすみちはや)(上段左) | (しょうじゆう)(上段中) | (ふくすみま) | (こめためい) | (よしだめいほ) | (いけたいぶき) |
| | | (下段左) | (下段右) | | (ただゆうや) |
| | | | | | (下段右から)番目 |



PTA公立高校訪問

本年度の大正中PTA進路委員会のPTA公立高校訪問は、9月12日（木）・26日（木）の2日間に分けて実施いたしました。訪問校の選択は、校内アンケートの結果を基にし、移動距離や時間、公立高校の予定等を考慮して決定いたしました。可能な限り昨年度の訪問校と重ならないことを考慮しつつ、訪問希望の多さから、2年連続での訪問となった高校もありました。どの高校も約1時間程度かけて、とても親切に説明・案内していただきました。それぞれの高校の特徴ある取り組みや、目指す生徒像、授業カリキュラムや校内の施設などを詳しく知ることができ、とても充実したものとなりました。実際の授業風景を見学させていただいたり、食堂を利用させていただくなど、普段なかなか見えない学校内の日常も体験できました。2日間の行程は以下の通りです。



五條高校でのようす

- | | |
|--------|------------------------------|
| 12日(木) | 榎原高校 → 五条高校 → 高田商業高校 → 桜井高校 |
| | 9:00～ 10:30～ 13:30～ 15:00～ |
| 26日(木) | 香芝高校 → 磯城野高校 → 高取国際高校 → 大淀高校 |
| | 9:00～ 10:30～ 13:30～ 15:00～ |

※両日も、マイクロバス1台に乗り合わせ、集合・解散は旧大正農協でした。昼食は12日が五條高校内学生食堂、26日は、道中のファミリーレストランでとりました。



高田商業高校でのようす